

## 無責任、セロ回答！！

### —第2回中央港湾団交—



第2回中央港湾団交は、3月15日（水）13時30分より芝浦サードセンター会議室（東京）で開催された。  
 第1回の組合側の要求提出に対して業側の回答は、「全体的に検討中や「個別対応と考える」との無責任な回答に終始した。  
 組合側の要求に対して業側もあった。特に「各単組が行っている賃上げに対して誠意をもたない」として、業側は「各単組の要求に対しては、22年度は「各単組の要求に対しては、22年度は「各単組の要求に対しては、22年度は」



全国港湾と港運同盟は、3月8日（水）から9日（木）にかけて23港湾産別春闘の一環として、中央行動を中央執行委員ならびに各地区港湾代表の総勢60名余りの参加で取り組んだ。

行動内容については、コロナ禍により昨秋年末の中央行動を踏襲して取り組む事として、行政申し入れとユーザー要請および街頭宣伝行動を実施した。行政申し入れとユーザー要請は、参加者全員が3月8日（水）13時30分から国土地交通省、15時20分から厚生労働省との申し入れに臨み、回答を行うよう求めた。また、当日の16時からは、外国船舶協会へ担当3名が

## 春を目標してガンバリ！！

### 23春闘中央行動

組合側は、全体として再と協議すること、3月27日考するべきとの立場から、個々の意図するところを強調するよう求めていることに対する対応について質した。そのうえで、産別労使が、事情を把握していない関係が問われている独禁法問題について、中労委が日営労働委員会として無責任ともいえる状況を示した。

そして、業側は、組合側の意見と反論に対して再考するとして次回交渉を3月28日（火）13時30分に行うことを提案してきた。組合側は、これを了承して団交を終了した。（14時40分終了）

の Sloan のもと街頭演説やビラ配りなど道行く市民に対し、港湾の現状の理解を訴えた。また、午後の13時から担当5名が日本貿易会への要請、14時から経済産業省・資源エネルギー庁との交渉を担当12名が行った。

街頭宣伝では、全国港湾玉田書記長が司会進行を行い、主催者挨拶で全国港湾真島委員長と港運同盟日吉会長は、港湾労働のおかれている窮状と23春闘では大幅賃上げを求めているなど、挨拶を行った。

市民への訴えでは、全国港湾竹内委員長代行、鈴木副委員長、瀬戸副委員長、遠藤副委員長がそれぞれ、港湾労働者の賃金や有事の際の港湾労働について演説を行った。

友誼組合からは、陸・海・空・港湾20労組で連帯している、国土交通省労組の横内副委員長と後藤書記長、航空連の津恵事務局長が駆け付け激励の挨拶を行った。

行動では、新橋駅前で組合旗、のぼり旗、横断幕、プラカードを掲げ、各々が350枚のビラを市民に配布した。

## シャモ樽

新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから3年が経過した▼今年1月初めに感染者が3万人、死者は6万人を超えた。特に死者数は昨年12月初めからの1ヶ月あまりで1万人も増えるなど、終息は見通せない。ただ、政府は感染拡大防止と社会経済活動のバランスを取るとして、感染症上の位置づけを見直す方向だ▼新型コロナウイルスは現在、結核など『2類』以上に厳しい感染防止措置がとれる『1類相当』と位置付けられている。これを5月の連休明けに季節性インフルエンザ等と同じ『5類』に引き下げる。5類に引き下げられると、現在は診察や入院ができる医療機関が限られているが、5類になれば一般の医療機関での診察・入院が可能になるため、医療の逼迫が緩和されると言われている。また、感染者や濃厚接触者の入院勧告や行動制限も無くなるなど、現在の仕組みと大きく変わることになる。5類への引き下げによる問題点としては診察や検査、入院などの費用は保険適用以外の部分が自己負担になると、受診控えによる治療の遅れや感染拡大などが懸念される。また、ワクチンの無料接種もどうなるか分からない。マスク着用の有無も個人の判断とするようだが、見直しには十分な検討が必要だと思ふ。